

手塚産業が建機ICT化を推進



同社モータープールでのICT施工デモの様子。タブレットやPCによる遠隔地での施工管理も容易だ

多様化するニーズに対応

【函館】手塚産業（本社 次世代の施工環境を見据え、独自に荷重判定や転圧管理のシステムを構築した。コマツのICTパック ホーとブルドーザを導入。建設現場で12日から稼働。

所有していたキャタビライ トマシンコントロール機能 シヤパンの2DMCバック を有している。加えて、ニ ホーとブルドーザを3DM コンクリンブルの「バック Cにバーションアップさせ るなど、多様化するニーズ 350」をオプションで搭 載した。正確な荷重計測に 応える体制を整えている。 同社は、労働力・熟練技 術者不足や生産性の低さ、 現場での安全確保など建設 業が抱える課題を踏まえ、 国土交通省が推進している i-Constructi onに注目。2016年秋 にICT建機である3DM CバックホーのコマツPC 200i-10を道南で初導 入した。

積載を避けて積載量を最適 化。トラックごとの積載量 や全体の運搬量を管理で き、生産性や利益の向上が 期待できる。 一方、ブルドーザは本道 含めた計3台にオペレータ ーを付けて施工に当たる。 同社はドローンによる施 工現場の測量も手掛けてい る。自動データ処理により 現場状況が3次元化され、 それを基に設計・施工計画 を策定。ICT建機に転送

ドローン測量なども導入

今回導入したのは、これに続く写機。ICT施工 に対応するインテリジェン



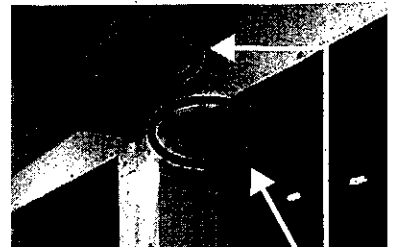
ユーザー

とカーチンオート社の加工販売を始めた 市場に回る大量生産品より値が張る が、ユーザーの依頼に細かく耳を傾ける など万全の体制で製作に臨むのが強み。 ノウハウは幅広く、用途に合わせた材料 選定や設計の相談にも応じてくれる。 大島徹司執行役員部長は「決して安価 ではないが、急な納期に対応できるもの 特長。鉄だけでなく、プラスチック分野 でも鈴木商会の存在感を出していきたい」と話している。

二子白木知恵は、此類 時に建物の損傷を瞬時に 把握する建物変位計測シ ステム「写機器」の震動 検証を実施し、実用化に 向けた成果を得た。これ を受け同社は、本社と全 国の支店に装置を設置。 地震発生後の事業継続計 画（BCP）遂行に向け て活用していく。

写真提供は、房上設置し たカメラで天井に設置 した光源ターゲット（L ED）の軌跡を撮影する 装置。地震発生時に揺れ 幅（扇形変形）を自動計 測して建物の損傷程度 を推定する。変形の大き さによって損傷レベル を「建物小破、継続使用 可」「建物中破、継続使用

可」を判定する。 実験は、防災科学技術 研究所の実大3次元震



ビジネス専用の 電動自転車投入

ヤマハ発動機は、丈夫 で積載性に優れたビジネ ス専用設計の電動アシス ト自転車「PAS GEARU」II写真IIの2



017年モデルを8月30 日に発売する。 使いやすいと見やすき にこだわった液晶ディスプレイは昼夜を問わず見やすく、便利な時刻表示も 備える。走行中の誤操作 によるアシスト機能オフ